



01



02



03



04



05



06

01/港に置かれた大量の青いネットは、「稚貝籠」というほたての養殖資材。自転車で走ると、まるで迷路のようだ。02/夏泊半島には、古びた漁船がそこかしこにあり、形も大きさもさまざま。カラフルでかわいい。03/ほたての看板が目印の「ほたて広場」で、大きさ自慢してくれた。2Fでは、養殖の歴史を学べる。04/夜越山森林公園では、3,000種類の多肉植物が見られる。スキー場、オートキャンプ場もある。05/海沿いのテトラポットが並ぶ場所、しばしば自転車を停めて休憩中の2人と1匹。06/夏泊崎の先端から大島へは、満潮時でも橋を歩いて渡れる。灯台もあり、陸奥湾を一望できる。

コース1 夏泊

Smooth as Scallops Ride

陸奥湾を眺めながら走る、ほたてと温泉のアツアツ探求路

1

走行距離:約36km 所要時間:約2時間30分

- A** 夜越山森林公園
東津軽郡平内町浜子字堀替36-1
TEL:017-755-2663
- B** ほたて広場
東津軽郡平内町大字土屋字鍵懸56
TEL:017-752-3220
www.hotate-hiroba.com
- C** 浅虫温泉駅前足湯
青森市浅虫蛸谷70



“夏泊”と書いて、なつどまりと読む素敵なネーミングは、ぐっと旅の高揚感をあおる。陸奥湾に突き出した夏泊半島は、津軽半島や下北半島ほど広くはないが、右に左に続く曲がりくねった山道と、遠くまで穏やかな陸奥湾の水平線を眺めながらの海道とを、わずかな距離で堪能できる地形だ。また、椿山の北限のヤブツバキ、大島のフクジュソウなど多様な植物が咲き誇るスポットでもある。半島をぐるっと周回する県道9号線、通称「夏泊ほたてライン」を快走すると小さな漁港が現れる。ここ平内町は、不漁が続いた1957年頃から重要な産業となったほ

たて漁の町で、港にごっそりと積まれた青い籠網は、ほたてを養殖するためのもの。地元の人たちは、友人の家に遊びに行くときにも手みやげとして貝ごと買っていくらしい。大きくて甘いプリプリのほたてを、BBQにするか、刺身にするかは好みで。

また、湯治の地として知られる浅虫温泉もお見逃しなく。駅前の足湯は、ペダリングの疲れを癒すのにちょうどいい。コースの走行距離が短いので、いい景色を見つけてはプレーキレバーに指をかけ、美しい景色を眺めてのんびりサイクリングを楽しむには最適だ。